

第37回

難病・遺伝医学 セミナー

講演：悪性高熱症の発症機構と創薬

2022年

4月20日 水 18:00-19:00

講師紹介：村山 尚先生

順天堂大学大学院・細胞分子薬理学 前任准教授

座長：岡崎康司（難病の診断と治療研究センター・ゲノム診療センター）

司会：新井正美（難病の診断と治療研究センター・ゲノム診療センター）

概要：悪性高熱症（MH）は外科手術時の吸入麻酔により体温が急上昇して全身状態が急速に悪化する危険な疾患である。MHの多くは骨格筋筋小胞体Ca²⁺遊離チャネルである1型リアノジン受容体（RyR1）の遺伝子変異によりチャネル活性が異常亢進することによって起こる。ダントロレン（ダントリウム）が治療薬として使用されるが、水溶性が低い等の欠点がある。われわれはダントロレンの欠点を改善する新しいMH治療薬の探索を行い、新規RyR1阻害薬としてCompound 1（Cpd1）を見出した。本セミナーではMH発症機構を概説し、Cpd1開発までの創薬研究について講演する。本セミナーを通じて創薬研究をより身近に感じてもらえれば幸いである。

申込方法：以下の申込フォーム・QRコードよりお申込みください。
※開催日までに詳細と招待URLのご案内メールをお送り致します。

<https://forms.gle/CzXSoawWcqoRFmfa6>

LIVE配信（Zoom）にて開催

4月19日（火）17時締切



お問い合わせ

難病の診断と治療研究センター/ゲノム診療センター

新井/原田（内線71407/5167）

共催：順天堂大学大学院医学研究科

順天堂大学大学院HP QRコード

